

令和7年4月

一橋大学

令和7年度一橋大学外国学校出身者選抜学力試験

出題の意図等 【小論文】

1.

近年、人類が自然を制御できるという「進歩の時代」における信憑を揺らぐような様々な自然現象が生起している。著者がこのことを指して「再野生化」と呼んでいることを読み取り、本文中に挙げられている具体例や、その原因が「人間のせい」であることなどに言及しながら、説明すればよい。

2.

「進歩の時代」から「レジリエンスの時代」への以降の兆しとして、近年どのような変化が起きているのかを、「時間的志向」と「空間的志向」のそれぞれについて、下線②に続く部分から読み取り、説明すればよい。

3.

著者は、人類が「共感的な衝動という特別な資質」を備えており、これが他の生命にも拡大して適用可能であることに期待を寄せ、人類がこのまま「地球を台無しにする」のではなく「地球を癒やす」方向へと一丸となることができるはずだと主張している。この主張にはどの程度の妥当性や実現可能性があるか、実現のためにはどのような条件が求められるか、実現不可能であるとすれば何故そのように考えられるか、などについて、本文内に触れられているものに限らず現実に起きている様々な事象に例として触れながら、説得的に自らの立場を表明することが期待される。